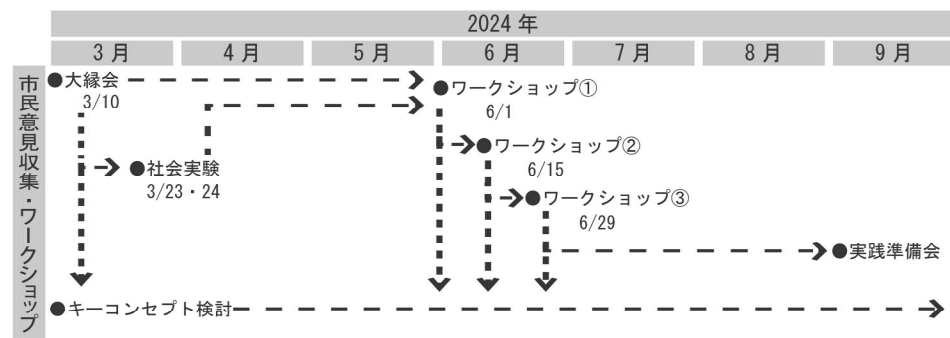


基本設計における検討経緯

本基本設計においては、計画に市民の意見を反映するため、市民ワークショップを行った。ワークショップに先立ち、高石市内で活動している団体やグループの方々に集まっていただき、キックオフミーティング「大縁会」を開催。その後、東側駅前広場の社会実験でのPRブース出展、3回にわたる市民ワークショップの開催を通し、市民のみなさんに本計画の概要を説明するとともに、高架下空間について知ってもらい、どのような場にしたいか、ここでどんな活動をしたいかなど、意見を出し合い、議論を重ねていただき、計画へと反映した。また、ワークショップ終了後には、ワークショップで発案された活用案の実現に向け、実践準備会を開催。市民主体の施設運用に向け、今後の設計・整備期間にも継続して活動を行う予定。

ワークショップでの市民意見をふまえながら、高石駅周辺整備に広く共通するキーコンセプトの作成を行った。

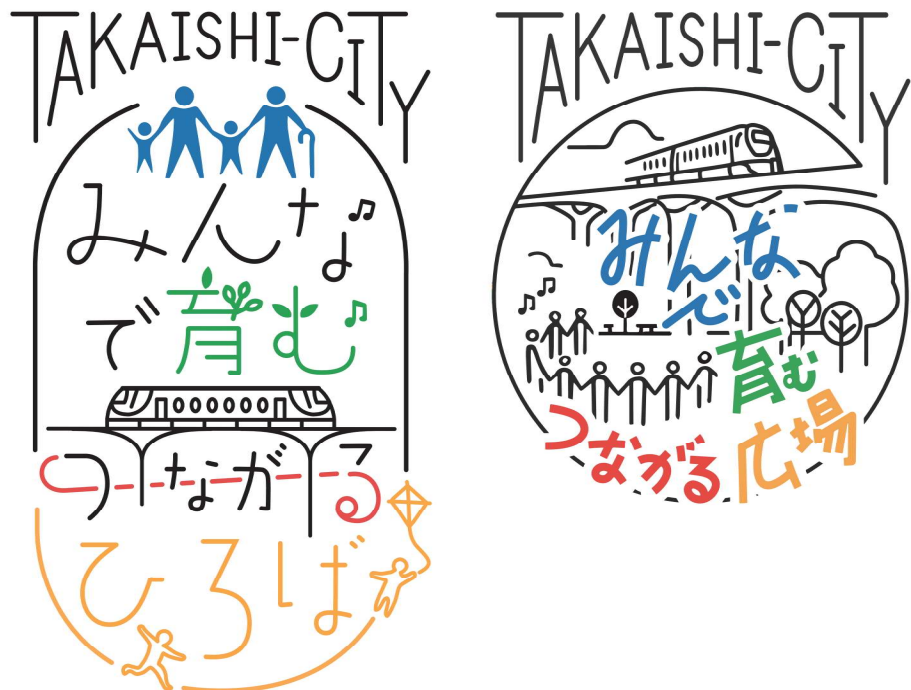


キーコンセプト

高石駅周辺整備のキーコンセプト

「みんなで育むつながるひろば」

高石駅周辺整備のキーコンセプトロゴ



市民ワークショップ

第3回ワークショップを開催しました

テーマ：使いこなしプランを考えデザインしよう
2024年6月29日(土) 14:00～16:30
高石市役所 別館3階 多目的ホール

高石駅北側の高架化空間の活用を市民の方と一緒に検討するワークショップ（全3回）の3回目が開催されました。市民約20名が、前回組んだ4つの活動チームに分かれて、より具体的な高架下の使いこなし案を検討しました。

1 遊具ゾーンと多世代交流ゾーン、基本的考え方と空間イメージを説明

最初に畑中市長から、これまでの経緯を踏まえ遊具ゾーンについて説明がありました。当初、子育て世代のニーズを受けて遊具中心の案になっていましたが、一方で遊具で遊ぶ以外の市民ニーズや居場所への課題もあります。そこで、遊具ゾーンに加えて市民活動（多世代交流）ゾーンを設けて、互いに相乗効果を生む場にしていきたいと考えました。例えば、ステージを使うときは遊具ゾーンの一部分が観客席になったり、大人も寛げるような遊具であったりと。

実際、図書館や市民ホールやハグッドなど現状の高石駅周辺の施設の利用者層を調べると、様々な利用者がいるなかで小学生と大学生が薄いことが分かってきました。今後はこうした層も補うことも考えていきたい。本日の皆さんの話し合いの参考にもしてください。

続いて、設計チームのフルパワースタジオから、遊具ゾーンと多世代交流ゾーンが融合して相乗効果を生むような遊具事例の説明がありました。うねった階段状の本棚のような空間が観客席にも遊び場にもなる例。ネット遊具空間で大人が寛いでいる例。波打つ凸凹のある空間で小さな子どもが遊ぶのを見守りながら大人が寛いでいる例など。家族連れがマルシェやステージ活動などを楽しむときに、そうした遊び場空間が一緒にあることはきっと相互に魅力を増すと思います。

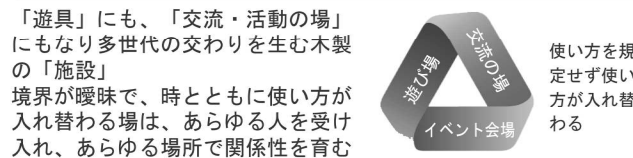


地域の代表者
人々がつながる、集う場となる、ひらかれた駅前
高架下に決められている機能



全体コンセプト

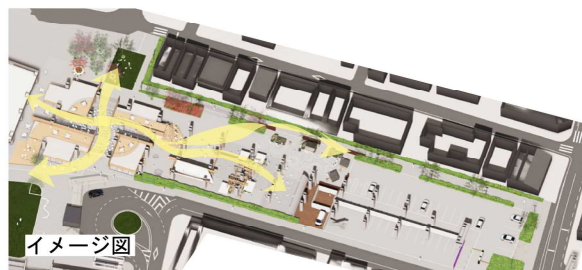
使い方を規定せず、使い方が入れ替わる
「施設」と「広場」が みんなをつなぐ



使い方が入れ替わる施設の例

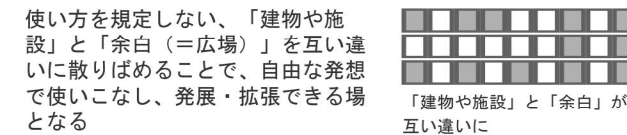
東西南北に貫く人の流れをつくり
まちとまちをつなぎ 駅前を元気にする

鉄道により分断されていたまちとまちをつなぎ、新しい人の流れをつくる



駅、東西の駅前広場、北側幹線道路へと人の流れをつくりまちをつなぐ

「建物や施設」と「余白」が互い違いに
散りばめられた空間が人々の創造性を高める



人々の創造性を高める「建物や施設」と「余白」がちりばめられた高架下

画一的で存在感ある鉄道高架の構造体と共存し
自由でのびやかな「新しい高架下モデル」をつくる

鉄道高架の柱を縫うように広がる自由なカタチと、高架の天井高さを生かした立体的な回遊性が新しい関係性をつくる



鉄道高架を支える大きな柱が林立する高架下を縫うように広がる建物と施設

2 グループワーク：高架下活用プロジェクトの具体的な計画づくり

前回第2回に結成された4つのグループごとに、高架下活用のプランの具体化を話し合いました。



チーム【光】

高架下を市民が様々なチャレンジできる場にしたい。

- ・チーム光の応援ソングをAIを使って作ったので聞いてください。
- ・市民がやってみたいチャレンジを具現化することで、高石に魅力が増え人が集まってくることを目指したい。
- ・何かをつくって販売したりできる「チャレンジの箱」を高架下に設置。
- ・高石名物の工場夜景と夜の飲食をつなげた昭和レトロな屋台村の名所をつくる。
- ・また、高石のお土産ショップや観光情報を発信する場をしていく。



チーム【高石ファミリア】

近隣保育園と連携した多世代が集う福祉的な活動の場づくり

- ・子ども食堂や学習支援など福祉的な事業だけでは継続が難しい。チャレンジショップや貸しスペースなど収益事業と組み合わせで継続できる仕組みをつくりたい。
- ・そういったなかで、近隣保育園のサテライトとして遊び場に活用。
- ・コミュニティカフェ、子ども食堂等で使えるキッチンと多目的室がほしい。
- ・指定管理制度で収益を還元しながら市民で運営ができるとよい。



チーム【今からでもできること！】

駅前には自由で多様な場。多世代が融合する安全な居場所

- ①今からできる！『健康づくり』（今からすぐに芝生広場で）
- ・毎週1回朝のラジオ体操。健康ポイントを発行して広げていく。
- ②イベント発表！『エンジョイ高石』（今からでも、オープン後も）
- ・ダンス、音楽など発表の場。子どもイベント・交換会。マルシェ、ビアガーデン。季節のお祭り・だんじり誘致など。
- ③チャレンジマッチング！『高石ショーケース』（高架下オープン後）
- ・「夢ポスト」設置して、得意なこと、やりたいことのマッチング。相談所



チーム【高石ミュージックストリート実行委員会】

高架下オープニングイベントを目指して、認知・定着のステップを

- 【ステップ①実践・認知】（2024年9月）
- 芝生広場やアブラ等を使ってまずはイベントをやってみる。季節ごとに活動を重ねて、体制や認知を広げていく。
- 【ステップ②定着】（2027年 春）
- 高架下オープニングイベントを大胆に開催！
- 【ステップ③拡大・広報・誘客】（2030年 春）
- 市内各所と連携してイベントを拡充していく、回遊できるイベントに。

地域の木を地域の技術で活かし
サステナブルでより良い未来につなぐ

地域産材や万博リサイクル材などの木材を、構造体や仕上げ材に積極的に活用することで、低炭素化に寄与するとともに、高石市の環境配慮姿勢を発信する場ともなる



地域産材や万博リサイクル材など流通サイズの木材の活用例

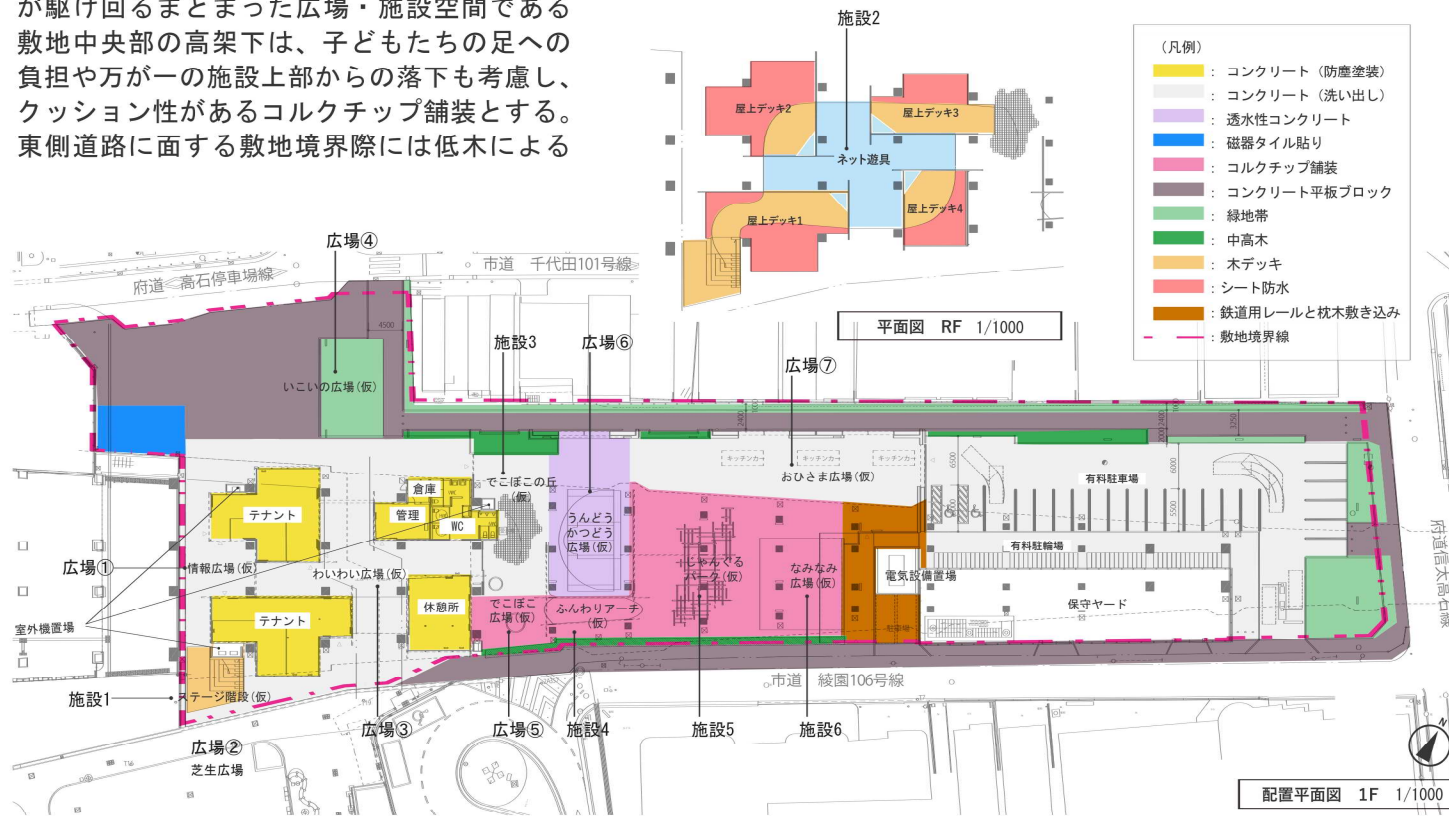
外構計画・床仕上げ計画

建物内を含め一般部の床は清掃性・耐久性に配慮しコンクリートとし、球技での利用も想定されるうんどうかつどう広場は透水性コンクリートとすることでドリブル音による周辺への騒音を抑える計画とする。子どもたちが駆け回るまとまった広場・施設空間である敷地中央部の高架下は、子どもたちの足への負担や万が一の施設上部からの落下も考慮し、クッション性があるコルクチップ舗装とする。東側道路に面する敷地境界際には低木による

植栽帯を計画し、子どもの急な飛び出しを防ぐ。なみなみ広場の高架下に位置する駐輪場南側の部分は、鉄道用レールと枕木を敷き込み、高架化前のこの場所の記憶を残す。

西側のおひさま広場には中高木も計画し、季節の変化が感じられる計画とする。

※広場名、施設名は仮です



情報広場（仮）

駅改札を降りるとわいわい広場（仮）やネット遊具の様子が目に入り、奥のスポーツ広場や木製施設まで視線が通る

管理室

全体を管理しやすい中央に配置した管理室の会議スペースは、イベント時にはオペレーションルームとしても利用可能

うんどうかつどう広場（仮）

雨をしのげる高架下のまとまった平場は、スポーツコートやダンス発表の場などアクティブな使い方が可能

おひさま広場（仮）

高架がなく日の当たる西側広場は、草木により四季が感じられ、キッチンカーの乗り入れも可能で、高架下の広場と一体的なマルシェイベント等にも活用可能

イメージ図

でこぼこ広場（仮）

地面にある起伏は子どもたちの自由な遊び場となる。へこんだ場所は水遊び場となり、水面には時に空が映り込む。

テナントをはじめとする

高架下への物品搬出入車両用の駐車場

北側は利用者の駐車場、

駐輪場とし、将来の拡張用地とする

施設（遊具）・広場計画



施設3：でこぼこの丘（仮）

様々な場所から自由な経路で管理棟屋上へと昇ることのできる木製のでこぼことした丘。子どもたちの遊び場となり、高架による日影の休憩場となり、隣接するうんどうかつどう広場の観客席にもなる。イベント時に作品や商品を並べる展示台にもなる。



施設4：ふんわりアーチ（仮）

大きな布がかけられた形状の「ふんわりアーチ（仮）」は、子どもたちがかけあがり滑り降りる遊具にもなり、大きなアーチ屋根がかかったイベント会場にもなる。



施設5：じゃんぐるパーク（仮）（マルシェ利用時）

子どもたちが自由に遊ぶことのできる木製ジャングルジムは、天板をのせたり、テントをかけることで、イベント時にはマルシェブースにもなる。使い方を規定しない木製架構は、自由な遊び場となり、交流・活動空間となり、空間を彩るオブジェにもなる。



施設6：なみなみ広場（仮）

地面がめくれ上がった「なみなみ広場（仮）」は、音の反射を活用したステージにもなり、地面の緩やかな起伏は、キッチンカーで買ったものを食べる休憩所にもなる。めくれ上がった地面の下には線路や枕木による舗装がかつての線路の記憶を残す。

ネット遊具

各建物の屋根をつなぐネット遊具が、空中の回遊性をつくる。ネット遊具はこどもの遊び場だけでなく、休憩場所や下部の「わいわい広場（仮）」の観覧席にもなる



ステージ階段（仮）

ネット遊具へと上がることのできる階段は、芝生広場でのイベントの観客席にもなる

わいわい広場（仮）

建物に囲まれ、上部にネット遊具のある広場は、音楽演奏などのイベント会場となり、建物内やネット遊具を観客席としたり、建物内部と一体的な大きなステージにもなる

休憩所

建具の開閉により、内部空間にも半屋外空間にもなる。子どもたちを見守る大人の滞在場所になり、広場でのイベントの観客席にもなり、市民活動のための寄合所にもなる。